



## 住総研だより 第14号 (2013年夏号)



7月5日に開催された住総研シンポジウムの様子(2～3頁参照)

### 目次：

最近の動き	1
イベントだより	2
・第37回住総研シンポジウム	
・2013年度研究助成	
・キックオフミーティング	
・住総研 清水康雄賞	
・加賀町アパートコミュニティ活動報告	
告知	8
・玉川学園地域フォーラム	
・住まいの本展	

### 最近の動き

#### ●平成25年度研究助成決定

平成25年5月27日の理事会、同6月14日の評議員会で、今年度の研究助成が決定した。また、昨年度の事業報告等が議決され、同決議に基づき公益目的支出計画実施報告書を内閣府へ提出した。

#### ●キックオフミーティング開催

平成25年度の研究助成20件を対象に、6月21日にキックオフミーティングが開催され、研究助成についてのガイダンスが行われた。同時に住総研研究選奨の表彰式と研究発表を開催し、これから始める研究者への参考事例として講演いただいた。事後、交流会が行われ、参加した研究者や研究運営委員のネットワークの拡大が期待される。

#### ●今年度研究助成重点テーマの解説について

今年度研究助成募集の重点テーマ「受け継がれることとしての住まい」の解説は、本年度からの「受け継がれる住まい調査研究委員会」で審議中、9月の委員会で決定し、10月からの研究助成募集のホームページに掲載される。

#### ●第37回住総研シンポジウム開催

本年度第1回シンポジウム『まちなか居住の魅力を考える』を7月5日(金)大阪市立住まい情報センターで開催した。

参加者は161名で、集まった義捐金(17,225円)は、東日本大震災の被災地へ寄付の予定。(ご協力いただいた皆様方へ御礼申し上げます)第2回目はフォーラム形式で10月19日(土)に、第3回目を平成26年2月21日(金)に予定。

#### ●図書展開催

7月22日(月)～9月20日(金)の平日に「住まいを考える 住まいの本展」を住総研図書室にて開催中。住まい・住まい方に関する本を展示しています。是非、ご来場ください。

#### ●住総研 清水康雄賞再開、第4回受賞者決定

平成22年度(第3回)から法人移行に伴い休止中であつた住総研 清水康雄賞は、今年度から概ね3年毎に顕彰する事で再開した。今回(第4回)の受賞者は、早稲田大学教授の佐藤滋氏に決定した。

## 第37回住総研シンポジウム概要

テーマ：『一般市街地』のすまいと居住を再評価する」第1回：「まちなか居住」の魅力を考える

-持続可能な都市住宅地のあり方を考える- ※東日本大震災復興支援事業



森本信明氏

2013年7月5日（金）13：30～17：00 大阪市立住まい情報センターホール  
司会：森本信明（近畿大学名誉教授/住総研研究運営委員会委員長）  
講師：角野幸博（関西学院大学総合政策学部教授）  
谷直樹（大阪市立大学名誉教授/大阪くらしの今昔館館長）  
坂本 昭（建築家/近畿大学建築学部特任教授）  
市川禮子（社会福祉法人きらくえん理事長）



角野幸博氏

平成25年度の重点テーマをもとに行う3回連続シンポジウム、本年度の第1回目が大阪で開催された。重点テーマの発案者であり司会の森本信明氏による趣旨説明では、まずテーマにある「一般市街地」および「まちなか」についての説明が行われた。ここでいう「一般市街地」、「まちなか」とは、郊外から都心近くまで、非計画的に小さな開発が重なりあって、次々に変化していくようなまちを想定しているという。その特徴を示すキーワードが「混在性／多様性」。これが、これから迎える縮小社会にも相応しい持続可能な住宅地であるとして、そのあり方を探るとするのが今年度の狙いである。

### ◆角野幸博「まちなか化による郊外の再生」

角野氏は、これから郊外がまちとして継続していくためには、「まちなか化」を避けては通ることができないことから、「郊外に『まちなか』は成立するか」と、問題提起した。はじめに郊外住宅地が開発された時代背景や、開発経緯が整理して説明され、ひとくちに郊外といっても「戦前住宅地（内郊型）」、「高度成長期住宅地（外郊型）」、「バブル経済期住宅地（超郊外）」など、開発経緯や社会背景でずいぶん異なるがわかった。これに対して、それぞれがどのような再生・再編のシナリオをもつのがこれからの大きな課題となるという。角野氏によると、まちなかの魅力は多様性であり混在性、また豊かな選択肢と、柔軟な変化にあるという。それは結果として郊外住宅地が持ち得なかった（結果

として否定してきた）ものばかり。これからの郊外は、世帯や世代の多様性や、住み替えのシステムの必要性、用途転用によるストックや空地のあり方、また適度な用途混在などによって、「まちなか性」を獲得していくことが求められる。こうした郊外の「まちなか化」は、自然発生的には難しいため、個別的解決ではなく、まちなか化への包括的な地域マネジメントの必要性が問われると、まちなか化の課題を挙げた。

### ◆谷直樹「いきている長屋ぐらしー路地・つきあい・地蔵盆ー」

都市・建築の歴史を専門とする谷氏は、約450年の歴史をもつ大阪のまちに学ぶものがあると、なかでも大阪のまちを特徴づける「長屋暮らし」に焦点をあて、その魅力について語った。かつて町人のまちと呼ばれた大阪のまちは、元禄2（1689）年ごろ、借家（かじや）世帯が84%を占めた記録があり、さらに近代に入ると、大正一昭和初期に建設された住宅の90%が貸家だと推計されるという。また昭和15（1940）年の調査では、総住宅戸数の95%が長屋建であったなど、大阪は町人のまちというよりも、借家人のまちであったという。そのまちを形成してきた長屋建について、時代ごとの空間の発展経緯や、貸家の経営法など、様々な視点で大阪のまちの成り立ちが紹介された。さいごに、谷氏が大阪市立大学在職中に関わった現代長屋の再生プロジェクトについて紹介された。改修を手がけた職人と学生との関わり、また学生が長屋のコ



谷直樹氏

コミュニティに入り込んで得た体験など、同僚の竹原義二氏、市大の学生らとともに関わった、7年にわたる調査・活動の記録である。参加した学生が、現代の生活では失われているものを、長屋暮らしのなかに発見するなど、生き続けるまちの暮らしが、世代を越えた普遍的な価値をもつことを再認識させられた。

#### ◆坂本昭「まちなかに暮らすー現代のまちなか居住ー」

建築家の坂本氏からは、まちなかの魅力に反して、居住においては不安要素となるような、高密度によるプライバシーの問題や、日射の確保、狭小空間でも居住空間にゆとりを生み出すための解決手法が、実例とともに紹介された。キーワードとなるひとつめが、「奥行き感のある空間」をつくること。道路から、いきなり建物に入るのではなく、内と外の間領域のような空間（たとえば、前庭や坪庭）をつくり、それらをルーバー、木格子、穴空きレンガなど、フィルターを重ねながら、ゆるやかにまちと室内とをつなげていくこと。それから二つめに「まちなかに立体的にすまう」こと。これは、吹抜けによる断面のつながりや、限られた日射を室内に落とし込むことで、自然現象を床や天井に映し出し、まちなかでも自然を感じながら生活するための手法である。また自身のアトリエ兼住居でもある「白いアトリエ」では、非住居から住居へコンバージョンできるような建築的なつくりかたも同時に紹介された。

さいごに、まちと家との距離は、完全にクローズした防御型ではなく、適度な開放によってゆるやかにつながること。まちに配慮した個々の作法だけではなく、行政や、地域の人、まちに関わる全ての人が、魅力あるまちのために関わっていくことが大切だと述べた。

#### ◆市川禮子「まちなかでの高齢者の豊かな暮らしー地域の中でひとりの生活者としての暮らしを築く」

兵庫県下で、高齢者福祉施設、在宅福祉サービスを展開している「社会福祉法人きらくえん」は、小さなサービスを含めると、およそ100事業を約800人の職員（パートも含む）で運営する。理事長を務める市川氏から、特別擁護老人ホーム、認知症グループホームでの暮らしを中心に、法人理念である「ノーマライゼーション：地域の中で一人の生活者としての暮らしを築く」という価値観に沿った運営方法、入居者の暮らしぶりが紹介された。きらくえん特養の最たる特徴は、あらゆる自由があること。美容院やお買い物、夜の居酒屋や旅行へと、一人でも自由に出かけてよいという。地域のなかでお金を使うこと、また人と人との交流のなかで高齢者も生活していくことを大切にしている。また、入居者の生活スタイルをなるべく継続させ、その人らしく暮らすことを促すなど、単なるケアの場ではなく、生活再編の場であることが述べられた。そのための建築的な配慮や、公私空間のあり方など、経験に裏付けられた運営手法を紹介。また現在進行中の事業「KOBE須磨きらくえん」では、特別擁護老人ホームだけでなく、高齢者のための分譲マンションやサービス付き高齢者住宅のほか、域交流スペースや保育園、学童ホーム、レストランなど、敷地内にまちのにぎわいを取り入れて、多世代共生型のノーマライズヴィレッジの構想がはじまっているという。ケアの場でも「まちなか」の多様性を取り入れた試みが、高齢者の豊かな精神と暮らしを育むことが語られた。

（文責：（有）建築思潮研究所 帳章子）



坂本昭氏



市川禮子氏

## 2013年度 住総研研究助成採択者(20件)

助成No.	主査名	所属	主題	テーマ
1 1301	厚 香苗	慶應義塾大学 非常勤講師	水上生活者の子どものために設置された児童福祉施設の研究	重点
2 1302	小林 茂雄	東京都市大学 教授	沿岸集落における夜間津波からの自主避難を誘導する光環境の調査	自由
3 1303	田中 雅一	京都大学人文科学研究所 教授	シェア居住における主体形成に関する文化人類学的研究	重点
4 1304	平井 太郎	弘前大学大学院准教授	集合分譲住宅の持続可能性を展望する「住む主体」形成にかんする関係論的研究	重点
5 1305	林 基哉	宮城学院女子大学大学院 教授	復興住宅の断熱気密等環境性能の実態	自由
6 1306	ガヴァンスキ 江梨	東北大学大学院 助教	住宅外壁の耐風圧性能評価法の提案	自由
7 1307	近藤 民代	神戸大学大学院 准教授	東日本大震災の自主住宅移転再建にみる住宅復興と地域再生の課題	重点
8 1308	本塚 智貴	京都大学 博士後期課程	仮設災害対応拠点におけるアダプティブ・ガバナンスの研究	重点
9 1309	伊藤 裕久	東京理科大学 教授	近世近代博多における職住近接と地縁的結合の変容に関する研究	重点
10 1310	乾 亨	立命館大学 教授	地域組織の活性化と新しい地域リーダー創出のための実践的研究	自由
11 1311	原戸喜代里	京都府立大学大学院 特任 助教	占領期京都における接收住宅に関する研究	自由
12 1312	山田 信博	大阪市立大学都市研究プ ラザ 特別研究員	公共住宅団地を活用した地域支援活動拠点に関する研究	重点
13 1313	重川希志依	常葉大学大学院 教授	借上げ仮設住宅施策を事例とした被災者の住宅再建に関する研究	自由
14 1314	趙 賢株	京都大学大学院 博士後期 課程	「住み継ぐ」という住まい方の実現に向けた住まい手に対する住情報支援に関する研究	自由
15 1315	駒木 定正	北海道職業能力開発大学 校 職業能力開発指導員	北海道における漁家住宅の歴史・地域的特性を活かすための研究	重点
16 1316	中島 伸	東京大学先端科学技術研 究センター 特任助教	城南住宅組合の活動と住環境の形成・維持に関する歴史的研究	重点
17 1317	前島 彩子	東京理科大学 嘱託補手	旧宗主国によりアフリカに供給された戸建住宅団地の増改築	重点
18 1318	秋田 典子	千葉大学大学院 准教授	コミュニティの主体性が発揮される公共空間の生成プロセスの解明	重点
19 1319	川田菜穂子	大分大学 講師	所得格差と相対的貧困の拡大における住居費負担の影響	自由
20 1320	大橋寿美子	湘北短期大学 准教授	資産運用型「賃貸併用住宅」の利活用によるコミュニティ形成	重点

## キックオフミーティング開催

「2013年度研究助成キックオフミーティング」が6月21日に開催された。

この会は、2013年度の研究助成の採択者と2012年度の住総研研究選奨受賞者を一堂に会し、助成研究への激励の意をこめ、全国から出席された「住」を研究する仲間と親睦を深めていただくことを目的としている。

はじめに、当財団専務理事岡本宏より開会の挨拶、続いて、研究運営委員会の森本委員長より、本年度研究助成20件の審査経過報告がなされ、「最も多い分野が都市・地域で34%となっており、年々その比率が増えている。これに対し集住・住戸の分野は7%にすぎず4年前の2009年度の31%から年々減少傾向である。募集要項にある住関連分野における住生活の向上に役立つ研究に対する関心が拡大してきていることを伺わせる。今回の応募研究の特徴は、重点テーマである「作られたものから作るものへー主体形成としての住宅」に関連したテーマが52件と急増した。これは研究内容を具体的に示したことが大きく寄与したものの。」と述べられた。一方で、「重点テーマとの関係が希薄な案件が見られたのは残念であった。」とする旨を付け加えた。

続いて、これからの研究実施にあたり、事務手続き等の説明が事務局からなされた。

後半には、森本委員長より2012年度「住総研 研究選奨」の主旨説明後、選出された3件の表彰が行われた。選奨論文は次の3件である。

### 【平成25年度住総研 研究選奨】

- ・ 小学校存続活動を契機とした持続的居住支援システムに関する研究

主査 福田 由美子（広島工業大学教授）

- ・ 明治後期から昭和期までの村川堅固邸及び別荘に関する調査研究 - 村川家の遺構と史料からみた近代都市中流知識層の住生活の実態 -

主査 浅野 伸子（放送大学客員准教授）

- ・ 社会関係の維持を可能にする集落空間再編の条件 - 南海・東南海地震による激甚被害が想定される沿岸集落の事例研究 -

主査 田中正人（株式会社都市調査計画事務所代表取締役）

受賞者からは受賞論文に基づく講演が行われ、研究方法や成果についての反省点などを具体的に話していただいた。

講演終了後、中庭で交流会が催され、研究運営委員の先生方や研究者同士の交流を深める貴重な機会となった。



研究運営委員長：森本信明氏



交流会の様子

## 住総研 清水康雄賞再開, 受賞者決定



受賞者：早稲田大学  
佐藤滋教授



住総研 清水康雄賞 正賞

### ●住総研 清水康雄賞再開, 受賞者決定

#### 1. 住総研 清水康雄賞の再開について

当財団創立60周年を記念して平成20年（2008年）に創設した『住総研 清水康雄賞』は、公益法人改革の移行に伴い、2011年以來中断をしていたが、本年2013年度より再開することになった。

#### 2. 第4回受賞者決定

『第4回 住総研 清水康雄賞』は、佐藤滋氏（早稲田大学理工学術院教授）に決定した。

学識経験者からなる選考委員会（委員長小林秀樹千葉大学大学院教授他4名）で審議され、「住総研の目的である『住まいに関する総合的研究・実践並びに人材育成を推進し、その成果を広く社会に還元し、もって住生活の向上に資すること』に適う優れた研究成果をあげるとともに、新たな時代につながる、或いは新分野を切り開くことが期待できる実践的活動を行っている研究者で、かつ今後も活躍が期待される者」として同氏を選考し、理事会・評議員会を経て決定した。

#### 3. 選考評

佐藤滋氏は、密集市街地研究をはじめとして、研究と実践を融合しつつ全国各地の住まい・まちづくり活動に携わり、それを通して、住民が主体的に取り組む“まちづくり”の理念と実践方法の確立、その普及に尽力された。

その成果は、「鶴岡市城下町のまちづくり」や「二本松市竹田根崎地区住民参加型まちづくり」のプロジェクトなどに凝縮され具体化、「まちづくりデザインゲーム」や「まちづくり市民事業—新しい公共による地域再生」等の書籍を通して社会に展開した。加えて、自治体や市民組織などと共同した取り組みによって多くの有能な“まちづくり人”を発掘・育成し、地元主体の

まちづくり活動のネットワーク化を支援してきた。

住宅個別の取り組みでは居住環境の改善が困難になっている現在、“まちづくり”を通して居住環境を改善する取り組みは、清水康雄賞が顕彰すべき「住まいに関する研究並びに実践における特に優れた成果」に照らし、その研究と実践並びにその活動を理論化し社会に普及・展開した一連の業績は、本賞の主旨にふさわしい顕著な成果として、高く評価された。

住総研 清水康雄賞 選考委員会  
委員長 小林秀樹

#### 4. 表彰式と記念講演会

平成25年11月8日（金）第一ホテル東京（新橋）において、表彰式と記念講演会が開催予定、賞状・正賞・副賞（200万円）が贈呈される。

#### 5. 受賞者のプロフィール

##### 佐藤 滋（さとう・しげる）

昭和24年（1949年） 千葉県出身  
早稲田大学理工学術院 教授、  
都市・地域研究所所長

##### ◎研究活動：

早稲田大学 都市・地域研究所 所長として、多くの自治体、市民組織と実践的な共同研究を行い、大学と社会、市民と専門家が連携するまちづくりの方法と体制の確立に取り組んでいる。

##### ◎学術賞等：

平成6年（1994年）日本都市計画学会石川賞（共同）、平成12年（2000年）日本建築学会賞論文賞、平成12年（2000年）都市住宅学会賞（論説）

## 加賀町アパートコミュニティ活動報告

賃貸集合住宅コミュニティ研究会では、今年度も市ヶ谷加賀町アパートのコミュニティ形成を目的とした居住者交流会を計画している。

今年度の第1回目は、市ヶ谷加賀町アパートの空いている敷地を利用したガーデニングである。昨年度も開催したが、今年度はさらに地域に根差すことを考慮し、市ヶ谷加賀町アパート近くの花屋の協力のもと、子ども6人を含む25人が参加した。

6月30日、梅雨時期であったが、朝から天気恵まれ、協力いただいた花屋さんの説明の後、早速作業に取り掛かった。昨年も参加いただいた居住者も多く、顔なじみとなったメンバーを中心に、まずは石を取り除く作業が効率よく進んだ。都心に暮らす居住者、とくに子どもにとっては土をいじる体験は少ないようで、土の中から出てくるミミズやダンゴ虫に喜ぶ様子は何ともかわいらしく、大人たちをなごませていた。土壌が整うと、次は苗植えの作業である。ノグイトウやエキナセア、ローズゼラニウムなど丈夫で育てやすい苗が準備され、植物の高さや色などバランスを考えながら、苗が植えられた。約2時間にわたる作業のあと、簡単な茶話会を行った。終了後のアンケートからは、ガーデニング、茶話会ともに評価が高く、「ご近所の方と知り合いになれてとても良かった」、「このような居住者同士の交流が図れる会を年に数回開催してほしい」との意見も見られた。

市ヶ谷加賀町アパートにおけるコミュニティについては、「賃貸集合住宅コミュニティ活性化研究会報告書」（2013年6月発行）にてまとめたように、市ヶ谷加賀町のコミュニティは、災害時などいざというときに助け合える「生活必要コミュニティ」と日常生活をより豊かに暮らすための生きがいや他者との交流から生まれる「生活文化コミュニティ」の二つのコミュニティが

存在して、成熟することを目標としている。このコミュニティが成熟するためには、場づくり、きっかけづくりが必要であり、事業主である住総研が寄与するものと考えている。

昨年度は防災懇親会を中心に居住者交流会を開催した。今年度は、防災関連とともに、市ヶ谷加賀町アパートの大規模修繕も予定しており、それに関連する居住者交流会も予定している。



## 玉川学園地域フォーラム開催

平成25年度の重点テーマ「一般市街地の住まいと居住を再評価する」の一環で、平成24年、東京都町田市玉川学園を対象に委員会を設立し、住まいと地域の持続可能性に関する実態調査を行ってきた。委員会では活動の成果を地域に還元することにしており、地域に住み続ける条件の1つ、健康づくりをテーマに昨年秋には『PPK(ピンピンコロリ)のススメ』と題した講演会を開催した。講演会では玉川学園地域の方々を対象に予防医学やスポーツ科学の研究者を招いて「坂のまち」玉川学園の地形を生かした健康づくり・住みこなし術の講演を行った。

玉川学園に「住み続ける・住み繋ぐ住まいとまちの条件」に関する実態調査が終了したので、地域の方々への報告を機に、地元町内会自治会連合会と共催でフォーラム「明日の玉川学園を考える」を開催することとした。前半は各講師の基調報告、後半では、玉川学園に「住み続ける、住み繋ぐ住まいとまち」とするためには如何すればよいか、地域の人達との意見交換会とする予定。地域の持続可能性に関心のある方は、是非ご参加いただきたい。入場無料。

**玉川学園地域フォーラムのご案内**  
主催：玉川学園・南大谷地区町内会自治会連合会、一般財団法人住総研  
 協力：玉川学園地区社会福祉協議会

2013年**10月19日(土)**  
**13:30～16:00**  
 会場：さくらんぼホール  
申込不要 入場無料！先着150名様

**司会** 松香 光夫 玉川学園町内会副会長

**開会のあいさつ**  
 13:30～ 鎮目 義雄 玉川学園・南大谷地区町内会自治会連合会会長  
 玉川学園地区社会福祉協議会会長

**報告**  
 13:35～ **地域の活動ー過去・現在・未来ー**  
 鎮目 義雄 前報

13:50～ **実態調査から見えてきたもの**  
 高見澤 邦郎 住総研 実態調査委員会委員長

14:10～ **地域福祉活動のこれから**  
 井上 宮子 玉川学園地区社会福祉協議会副会長

14:25～ **想いの宿る場所づくり**  
 岡本 宏 町玉川学園第一住宅自治会会長

----- 休憩 (15分) -----

**意見交換**  
 15:00～ **住み続けられるまちにむけて**  
 16:00 **地域で活動されている方々より**  
 コメンテータ 森本 信明・竹内 睦男  
(住地町 実地調査委員会委員)

本フォーラムにつきまして、予告なく変更する場合がございます。御承知ください。

**お問合わせ先**  
玉川学園・南大谷地区町内会自治会連合会 042-725-0438(連合会事務所)または、一般財団法人住総研 03-3484-5388(住総研清水)迄

あすの玉川学園地域を考える

住み続けられるまちにむけて

## 住まいの本展開催中

住総研図書室(住まいの専門図書室)を地域のみならず多くの方々に知っていただく目的で、昨年・一昨年「住まいとまちの絵本展」を開催してきた。過去2回開催の絵本展ではワークショップへの参加者は幼児+母親がほとんどだったが、開催目的を間接的に達成してきたと言える。今年度は学生や地域の大人に図書室の所蔵本をアピールし、興味を持った人に来ていただく試みとした。

開催期間は7月22日(月)～9月20日(金)、猛暑の中での開催となるので、自宅の冷房を消して閲覧室にて涼んでいただくクールシェアに協力している。多くの方に住総研図書室を訪れていただきたい。

一般財団法人 住総研

**住まいを考える  
住まいの本展**

2013年7月22日(月)～9月20日(金)  
**9:00～16:00** (土日は休館いたします)

住まいの専門図書室にて開催いたします。図書室はどなたでも閲覧いただけます。

住まい・住環境に関する本を展示いたします。展示中、読書会や読書会のためのワークショップに協力いたします。ご希望の図書室と住所の対応は、住総研のホームページの検索機能にてご確認ください。(入室無料)

**本の内容**

- ・世界の住まい
- ・住まいの歴史
- ・家づくり(実例、間取り、建て方、エコ、バリアフリー等)
- ・マンション(選び方、管理、修繕、生涯住む、資産価値等)
- ・住まいの万(若後の懸念、子どもや家族に良い、安心等)
- ・リフォーム
- ・住まいの絵本

主催・お問合わせ先  
 住総研 住総研(清水)事務所  
 住所 住総研 清水 事務所  
 電話 03-3484-5388

住総研は「住まい」に関する研究助成事業を中心に、「住総研研究論文集」等を発刊、また住に関する専門図書室、シンポジウム・セミナーの公開開催など、社会の役に立つような事業を進めています。

住総研は「住まい」に関する研究助成事業を中心に、「住総研研究論文集」等を発刊、また住に関する専門図書室、シンポジウム・セミナーの公開開催など、社会の役に立つような事業を進めています。

## 住総研だより 第14号

発行日 平成25(2013)年8月31日  
 発行人 岡本 宏  
 発行所 一般財団法人住総研  
 〒156-0055 東京都世田谷区船橋4丁目29-8  
 電話 03(3484)5381  
 FAX 03(3484)5794  
 E-mail jusoken@kpe.biglobe.ne.jp  
 URL <http://www.jusoken.or.jp/>

住総研は「住まい」に関する研究助成事業を中心に、「住総研研究論文集」等を発刊、また住に関する専門図書室、シンポジウム・セミナーの公開開催など、社会の役に立つような事業を進めています。

この「住総研だより」は、当財団の活動を研究者、市民の皆様により広く理解いただくとともに、意見交流の場になることを願って配信しておりますので、よろしくお願ひします。

「住総研だより」編集委員会